

このことについて、下記のとおり「麦作情報（第6号）」について送付しますので、業務の参考にしてください。

## 令和8年産麦作情報（第6号）

### 1. 気象の概要（3月5半旬～4月2半旬）

- ◆平均気温…平年より高く推移した（平年比+2.5℃）。
- ◆降水量 …平年より多く推移した（平年比117%）。
- ◆日照時間…平年よりやや短く推移した（平年比89%）

### 2. 管内麦類の生育状況

▼佐城管内の調査結果（4月14日調査）

場所	品種名	播種日	出穂期
鍋島	シロガネコムギ	11/24	3月29日（4月13日）
北川副	さちかおり	11/24	4月7日（4月16日）
川副	はるか二条	12/10	3月24日（4月11日）

注1) ( ) 記載は昨年度の生育状況。圃場、播種日など条件が異なるため、あくまでも参考程度。

#### 【概況】

- 大麦では現在、登熟期を迎えており、小麦では現在、開花期終盤を迎えている。出穂期は平年と比べると平年並み～約2日早く、昨年と比べると7日～10日程度早い傾向にある。
- 小麦・大麦ともに、3月までの高温と多日照の影響で草丈が高く、莖数は多い傾向となっている。
- 12月播種の小麦では、生育が遅れており間もなく出穂期を迎える。

#### ◎農試作況試験における麦類の生育（4月15日調査）

品種	播種期 (月/日)	年次	穂数 (本/㎡)	葉色 (止葉)	止葉 葉位(L)	概況4) (平年・平均と比較して)
1) シロガネコムギ	11/20	本年	495	44.5	8.8	<b>【気象】</b> 3月19日～4月14日まで ◆平均気温…2.5℃高い ◆日照時間…やや長い(平年比102%) ◆降水量…多い(平年比126%)  <b>【生育】</b> ◆穂数 「シロガネコムギ」は11/20播種でやや多く、12/10播種で平年並み。「サチホゴールド」及び「はるか二条」は両作期とも多い。
		平年	466	44.6	9.5	
		平年比(差)	106	-0.1	-0.7	
2) サチホゴールド	12/1	本年	583	46.7	10.1	◆葉色(SPAD値) 「シロガネコムギ」は両作期とも平年並み。「サチホゴールド」は12/1播種で平年並み、12/10播種でやや濃い。「はるか二条」は両作期ともやや濃い。  ◆止葉葉位 「シロガネコムギ」は11/20播種で少なく、12/10播種で多い。「サチホゴールド」は両作期とも平年並み。「はるか二条」は12/1播種でやや少なく、12/10播種でやや多い。
		5カ年平均	523	46.3	10.2	
	平均比(差)	111	0.4	-0.1		
3) はるか二条	12/10	本年	651	47.0	10.0	◆生育ステージ 11/20播種 小麦:4/6ごろ開花期 12/10播種 小麦:4/13ごろ開花期 12/1播種 大麦:蒴殻抽出期 12/10播種 大麦:あと数日で蒴殻抽出期
		平年	496	45.4	9.9	
	平年比(差)	131	1.6	0.1		
留意点	12/1	本年	637	53.7	9.7	◆赤かび病については降水量が多く、今後発生が増加する恐れがあるため、県農業技術防除センターより注意報が発令された(令和8年4月13日付佐農技防第47号「病害虫発生予察注意報第1号」)。注意報を参考に適期防除を徹底する。 ◆湿害による葉の枯れ上がりを防ぐため、排水溝の整備や排水口の増設及び枕地の点検を行い、滞水しないよう排水対策に努める。
		5カ年平均	586	51.6	10.0	
		平均比(差)	109	2.1	-0.3	
留意点	12/10	本年	698	53.6	10.0	
		平年	573	51.0	9.8	
		平年比(差)	122	2.6	0.2	

### ◎本年の生育ステージ

品種	播種期 (月/日)	年次	幼穂形成 始期 (月/日)	節間伸長 開始期 (月/日)	茎立期 (月/日)	出穂期 (月/日)	成熟期 (月/日)
シロガネコムギ	11/20	本年	1/27	2/18	2/21	3/28	未
		前年	2/3	3/1	3/5	4/7	5/29
		平年	1/30	2/18	2/22	3/30	5/23
		平年差	-3	±0	-1	-2	-
	12/10	本年	2/23	3/4	3/6	4/5	未
		前年	3/5	3/17	3/19	4/11	6/2
		平年	2/21	3/1	3/4	4/5	5/25
		平年差	+2	+3	+2	±0	-
サチホゴールデン	12/1	本年	2/4	2/25	2/27	3/28	未
		前年	2/13	3/12	3/14	4/8	5/22
		平年	2/8	2/27	3/5	3/31	5/14
		平年差	-4	-2	-6	-3	-
	12/10	本年	2/9	2/28	3/3	4/1	未
		前年	2/18	3/13	3/16	4/11	5/26
		平年	2/11	3/3	3/7	4/3	5/17
		平年差	-2	-3	-4	-2	-
はるか二条	12/1	本年	2/4	2/24	2/26	3/29	未
		前年	2/13	3/8	3/10	4/7	5/25
		平年	2/8	2/25	3/3	3/31	5/16
		平年差	-4	-1	-5	-2	-
	12/10	本年	2/7	2/25	2/27	3/31	未
		前年	2/18	3/10	3/12	4/11	5/27
		平年	2/9	2/25	3/1	3/31	5/16
		平年差	-2	±0	-2	±0	-

### 3. 今後の管理

#### 1) 施肥

#### ○穂揃期追肥（実肥）

タンパク含有率向上のため、穂揃期追肥を施用する。特にパン用小麦は必ず施用する。

○表2. 穂揃期追肥の施肥基準目安

葉色	用途	品 種	窒素量 (kg/10a)	実肥の施用量 (kg/10a)	
				硫安の場合	尿素の場合
葉色に関わらず 必ず施用	パン	はる風ふわり	5	25	12.5
		さちかおり	7	30	15
	めん	チクゴイズミ	3	15	7.5
シロガネコムギ		2	10	5	
葉色が薄い場合 に施用 注1)	ビール	サチホゴールデン	2	10	5

注1) 出穂期前頃の SPAD 値がシロガネコムギで 40 以下、ビール大麦で 39 以下の場合。

注2) 穂揃期追肥は、出穂期の 3 日後が効果的。それ以降に施用する場合は増量が必要。

#### ＜液肥利用の留意点＞

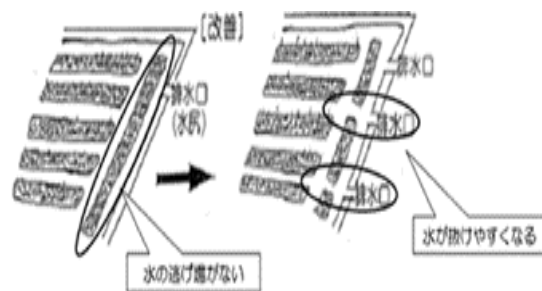
- 肥料を溶かす際は、直接タンクに入れると溶けない場合があるため、事前にお湯等で溶かし、タンクに入れると濃度ムラがなくなる。

※硫酸による液肥施用は難しいため、液肥利用の際は尿素を用いる。

- 乗用管理機での施用の場合、赤かび病防除との同時施用も可能。ただし施用時期が遅くなるため、3～4割追加した量が必要になる。
- 液肥施用後、芒や葉先などに肥料焼けがみられるが、収量や品質への影響は小さい。

## 2) 排水対策

- 排水対策は、分けつの確保や登熟向上・収量向上・品質向上に重要である。
- 土入れに加え、まくら地の排水溝を整備し、圃場内の水を早く排水できるように努める。  
→特に、トラクターカルチで土入れを実施する場合は、排水不良（うね溝の停滞水が増える）となりやすいので、うね溝と排水口をつなぐよう徹底する。
- 近年は温暖化の影響で出穂期前後から大雨が降ることが多い。水が溜まったら排水溝に逃がす作業を必ず実施する。



## 3) 病害虫防除

- 網斑病・赤かび病は予防が基本となる。本年の出穂期は、平年に比べ前進化しているため、時期を逸しないよう防除を実施する。



写真1.オオムギ網斑病

### (1) オオムギ網斑病

- 4月以降、気温の上昇に伴い病斑の進展が懸念されるため、各圃場の発生状況に注意が必要である。
- 本病が多発すると登熟に影響し減収・品質低下の原因となるため、上位葉で病斑の進展が確認される場合は、出穂期～穂揃期の防除適期に防除を実施する。

### 網斑病の防除適期

麦種	全茎数の40～50%が出穂した日	出穂期	穂揃期	全茎数の80%が出穂した日（出穂期から概ね2～3日後）					
		0	+5日	+10日	+15日	+20日	+25日		
大麦	←—————→								

注1) 出穂期とは全茎数の40～50%が出穂、穂揃期とは全茎数の80%が出穂した日。

注2) 矢印は防除適期を示し、薬剤については次表を参照とする。

注3) 出穂期より早い時期から発生株が散見され、病斑が上位葉に進展している場合は、この時期にも防除を実施する。

○表3. チルト乳剤25使用方法

農薬名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量 (/10a)	使用時期	総使用回数	使用方法
チルト乳剤25	網斑病	1000倍	60～150L	収穫21日前まで	1回	散布
		8倍	0.8L			無人航空機による散布

※ チルト乳剤は1回しか使用できないので注意する。

## (2) コムギ黄斑病

- ・降雨などの多湿条件と 10℃以上の気温条件が、一次伝染および二次伝染を助長する。
- ・前作が大豆の圃場では、水稻の圃場より顕著に発生が多くなる傾向にある。また、発病には品種間差異があり、シロガネコムギは耐病性があるが、チクゴイズミ、ミナミノカオリ、はる風ふわり、さちかおりで発病が確認される。
- ・本病が上位葉まで進展すると、収量・品質に影響を及ぼす恐れがあるため、出穂期までに薬剤防除を徹底する。  
(登録薬剤：チルト乳剤、ワークアップフロアブルなど)



写真2.コムギ黄斑病

## (3) 赤かび病

過去に他県にて、小麦のカビ毒(DON)の基準値(1.0mg/kg)を超過するものが流通し、商品回収が行われる事故が発生しています(および玄麦の廃棄)。カビ毒に汚染された麦を流通させると、消費者・実需者の信頼を失い、国産麦全体の消費の減少に繋がりがねないため、確実に赤かび病防除を実施する。

- ◎特にパン用小麦(はる風ふわり・ミナミノカオリ・さちかおり)、大麦(はるか二条・しらゆり二条)については2回防除を徹底する。
- ・出穂期は、播種時期や圃場条件、今後の気象等によって異なるため、必ず圃場ごとの生育状況を確認したうえで、適期防除に努める。



- ・今年は3月下旬以降に断続的な降雨があり、本病菌の感染に好適な気象条件※で経過している。九州北部地方の1か月予報(福岡管区気象台4月2日発表)では、向こう1か月の気温は平年より高く、降水量は多いと予想されている。特に1週目(4/4~4/10)は平年に比べ晴れの日が少ないと予想されており、本病の感染が助長されるおそれがある。

※感染に好適な気象条件(孢子飛散好適条件)とは①日最低気温が10℃以上、②日最高気温が15℃以上、③降雨日(または湿度80%以上)またはその翌日、以上の3条件を満たす気象条件

- ・防除は、次ページの表を参考に必ず圃場の生育状況を確認した上で、適期防除に努める。

### ① 小麦の防除時期

- ・1回目の防除時期：開花最盛期(出穂期の約7~10日後)
- ・多発生が予測される場合は2回実施(1回目の10~20日後)

「パン用小麦」は、通常の2回防除に加え、追加防除を行う



写真3.小麦開花期

②大麦の防除時期

- 1 回目の防除時期：葍殻抽出始め（出穂期の約 2 週間後）
- 多発生が予測される場合は 2 回実施（1 回目の 7 日後）

大麦の芒（のげ）の下から  
黒い **葍殻** が出る時期に防除

「はるか二条」は、収穫前日数に留意して  
通常の 2 回防除に加え、追加防除を行う

※大麦でトップジンM水和剤は、収穫 30 日前までと  
なっており、今の時期は使用できないことに注意する。



写真4. 大麦葍殻抽出期

◎赤かび病の防除適期について(令和 8 年 4 月 13 日付佐農技防第 47 号「病害虫発生予察注意報第 1 号」より)

3. 防除対策

1) 小麦

- (1) 本病に対する 1 回目防除を開花始め～開花期（出穂期の約 7 日～10 日後）に確実に実施する。1 回目防除が遅れている場合は、降雨の合間を見計らい速やかに薬剤防除を行う。
- (2) 本年は赤かび病が発生しやすい気象条件で推移しているため、発病抑制及びかび毒低減を目的とした 2 回目防除を開花 10～20 日後頃に行う。 収穫前日数や使用回数に留意して薬剤散布する。
- (3) 生育後期のかび毒低減を目的とした追加防除は、今後の天候次第で検討する。
- (4) 刈り遅れや倒伏により麦類が降雨に当たると、かび毒産生を助長する原因となるため、適期に確実に収穫する。

2) 大麦

- (1) 本病に対する 1 回目防除を葍殻抽出期（出穂期の約 2 週間後）に確実に実施する。1 回目防除が遅れている場合は、降雨の合間を見計らい速やかに薬剤防除を行う。
- (2) 本年は赤かび病が発生しやすい気象条件で推移しているため、発病抑制及びかび毒低減を目的とした 2 回目防除をその 7～10 日後頃に行う。 収穫前日数や使用回数に留意して薬剤散布する。
- (3) 刈り遅れや倒伏により麦類が降雨に当たると、かび毒産生を助長する原因となるため、適期に確実に収穫する。

表 2 麦類赤かび病等の防除時期

麦種	品種	出穂期		開花		開花10日		開花20日		開花30日	
		↓ 0	↓ +5日	↓ 開花期(小麦)	↓ 葍殻抽出期(大麦)	+10日	+15日	+20日	+25日	+30日	+35日
小麦	パン用品種			←→	←→	←→	←→	←→	←→	←→	←→
	シロガネコムギ			←→	←→	←→	←→	←→	←→	←→	←→
	チクゴイズミ			←→	←→	←→	←→	←→	←→	←→	←→
大麦	はるか二条				←→	←→	←→	←→	←→	←→	←→
	しらゆり二条				←→	←→	←→	←→	←→	←→	←→
	サチホゴールド				←→	←→	←→	←→	←→	←→	←→

←→ : 1 回目防除    ←→ : 2 回目防除  
 ←--→ : かび毒低減を目的とした追加防除

注 1) かび毒低減を目的とした追加防除は、今後の天候次第で検討する。実施する場合は、前回防除から 7 日以上経過している場合に行う。

注 2) 薬剤の使用法（収穫前日数、使用回数）に特に注意する。

麦種	薬剤名 (成分名)	希釈倍数	使用液量	使用時期	使用回数	使用方法
大麦	トップジンM粉剤DL (チオファネートメチル)	—	3~4kg /10a	収穫14日前まで	出穂期以降 1回以内	散布
	トップジンM水和剤 (チオファネートメチル)	1000~1500 倍	60~150L/10a	収穫30日前まで	出穂期以降 1回以内	散布
	トップジンMゾル (チオファネートメチル)	1500倍	60~150L/10a	収穫14日前まで	出穂期以降 1回以内	散布
		8倍	0.8L/10a	収穫21日前まで	出穂期以降 1回以内	無人航空機 による散布
	ワークアップ粉剤DL (メトコナゾール)	—	3kg/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布
	ワークアップフロアブル (メトコナゾール)	2000~ 3000倍	60~150L/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布
		10~24倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布
	シルバキュアフロアブル (テブコナゾール)	2000倍	60~150L/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布
		16倍	0.8L/10a	収穫14日前まで	2回以内	無人航空機 による散布
	ミラビスフロアブル (ピジフルメトフェン)	1500~2000 倍	60~150L/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布
8~16倍		800 ml/10a	収穫14日前まで	2回以内	無人航空機 による散布	
小麦	トップジンM粉剤DL (チオファネートメチル)	—	3~4kg /10a	収穫14日前まで	出穂期以降 2回以内	散布
	トップジンM水和剤 (チオファネートメチル)	1000~1500 倍	60~150L/10a	収穫14日前まで	出穂期以降 2回以内	散布
		250倍	25L/10a	収穫14日前まで	出穂期以降 2回以内	散布
	トップジンMゾル (チオファネートメチル)	1000~1500 倍	60~150L/10a	収穫14日前まで	出穂期以降 2回以内	散布
		8倍	0.8L/10a	収穫14日前まで	出穂期以降 2回以内	無人航空機 による散布
	ワークアップ粉剤 (メトコナゾール)	—	3kg/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布
	ワークアップフロアブル (メトコナゾール)	2000~ 3000倍	60~150L/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布
		10~24倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布
	シルバキュアフロアブル (テブコナゾール)	2000倍	60~ 150L/10a	収穫7日前まで	2回以内	散布
		500倍	25L/10a	収穫7日前まで	2回以内	散布
		16倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	2回以内	無人航空機 による散布
	ミラビスフロアブル (ピジフルメトフェン)	1500~2000 倍	50~150L/10a	収穫7日前まで	2回以内	散布
		250~500倍	25L/10a	収穫7日前まで	2回以内	散布
		8~16倍	800ml/10a	収穫7日前まで	2回以内	無人航空機 による散布

令和8年産 麦刈取り開始時期予想積算気温表（4月19日現在）

月	日	品 種		はるか二条 サチホゴールデン					シロガネコムギ・テクゴイズミ はる風ふわり・さちかおり				
		出穂期		3月24日	3月27日	3月30日	4月1日	4月4日	3月27日	4月1日	4月6日	4月11日	4月16日
		平年値	本年値	出穂	出穂	出穂	出穂	出穂	出穂	出穂	出穂	出穂	出穂
	23	11.3	14.8										
	24	11.4	15.0	出穂日									
	25	11.5	13.3	13									
	26	11.7	15.1	28									
	27	11.8	15.0	43	出穂日				出穂日				
	28	12.0	15.5	59	16				16				
	29	12.2	16.2	75	32				32				
	30	12.4	16.1	91	48	出穂日			48				
	31	12.6	16.8	108	65	17			65				
4	1	12.8	13.3	121	78	30	出穂日		78	出穂日			
	2	13.0	14.7	136	93	45	15		93	15			
	3	13.2	15.6	152	108	60	30		108	30			
	4	13.4	16.6	168	125	77	47	出穂日	125	47			
	5	13.5	16.5	185	141	94	63	17	141	63			
	6	13.7	16.8	202	158	110	80	33	158	80	出穂日		
	7	13.9	14.3	216	172	125	95	48	172	95	14		
	8	14.1	12.7	229	185	137	107	60	185	107	27		
	9	14.3	14.0	243	199	151	121	74	199	121	41		
	10	14.4	19.1	262	218	170	140	93	218	140	60		
	11	14.6	17.7	279	236	188	158	111	236	158	78	出穂日	
	12	14.8	18.6	298	255	207	177	130	255	177	96	19	
	13	14.9	18.3	316	273	225	195	148	273	195	115	37	
	14	15.1	18.0	334	291	243	213	166	291	213	133	55	
	15	15.2	17.6	352	308	261	231	184	308	231	150	73	
	16	15.4	18.8	371	327	279	249	202	327	249	169	91	出穂日
	17	15.6	18.5	389	346	298	268	221	346	268	188	110	19
	18	15.7	19.8	409	366	318	288	241	366	288	207	130	38
	19	15.9	19.1	428	385	337	307	260	385	307	227	149	57
5	6	18.8		724	680	633	602	556	680	602	522	444	353
	7	19.0		743	699	652	621	575	699	621	541	463	372
	8	19.1		762	718	671	641	594	718	641	560	483	391
	9	19.2		781	738	690	660	613	738	660	580	502	410
	10	19.3		800	757	709	679	632	757	679	599	521	430
	11	19.4		820	776	729	698	652	776	698	618	540	449
	12	19.5		839	796	748	718	671	796	718	638	560	469
	13	19.6		859	815	768	738	691	815	738	657	580	488
	14	19.7		879	835	787	757	710	835	757	677	599	508
	15	19.8		898	855	807	777	730	855	777	697	619	528
	16	19.9		918	875	827	797	750	875	797	717	639	548
	17	20.1		938	895	847	817	770	895	817	737	659	568
	18	20.2		959	915	867	837	790	915	837	757	679	588
	19	20.4		979	936	888	858	811	936	858	777	700	608
	20	20.5		999	956	908	878	831	956	878	798	720	629
	21	20.6		1020	977	929	899	852	977	899	819	741	649
	22	20.8		1041	997	950	920	873	997	920	839	762	670
	23	20.9		1062	1018	971	940	894	1018	940	860	782	691
	24	21.0		1083	1039	992	961	915	1039	961	881	803	712
25	21.2		1104	1061	1013	983	936	1061	983	902	825	733	
26	21.3		1125	1082	1034	1004	957	1082	1004	924	846	755	
27	21.4		1147	1103	1055	1025	978	1103	1025	945	867	776	
28	21.5		1168	1125	1077	1047	1000	1125	1047	967	889	798	
29	21.7			1146	1099	1069	1022	1146	1069	988	911	819	
30	21.8			1168	1120	1090	1043	1168	1090	1010	932	841	
31	21.9				1142	1112	1065	1190	1112	1032	954	863	
6	1	22.1				1164	1134	1087	1212	1134	1054	976	885
	2	22.2					1157	1110	1234	1157	1076	999	907
	3	22.3						1132	1257	1179	1099	1021	930
	4	22.4						1154	1279	1201	1121	1043	952
	5	22.6							1302	1224	1144	1066	975
	6	22.7							1324	1247	1166	1089	997
	7	22.8								1269	1189	1111	1020
	8	22.9								1292	1212	1134	1043
	9	23.0									1235	1157	1066
	10	23.1										1180	1089
	11	23.2											1112
	12	23.2											
13	23.3												
14	23.4												
15	23.5												
16	23.6												
17	23.7												
18	23.7												
19	23.8												

**麦刈取り開始時期予想積算気温**  
 【刈り取り時期の目安】  
 大粒大麦・・・穂首が1/3以上がわん曲したとき ●はるか二条・・・750～850℃  
 サチホゴールデン・・・全体の穂が45～90度湾曲したとき ●サチホゴールデン・・・800～850℃  
 小麦・・・ほとんどの茎葉が退色したとき ●シロガネコムギ、テクゴイズミ、はる風ふわり、さちかおり・・・900～1000℃  
 ●さちかおり・・・950～1050℃

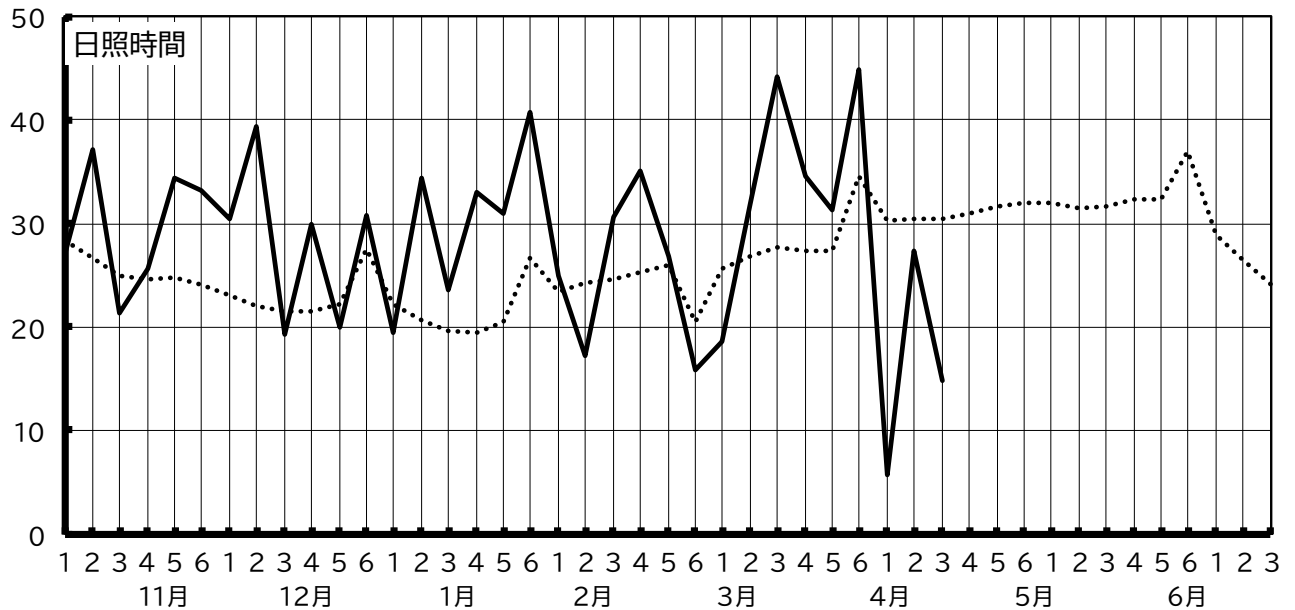
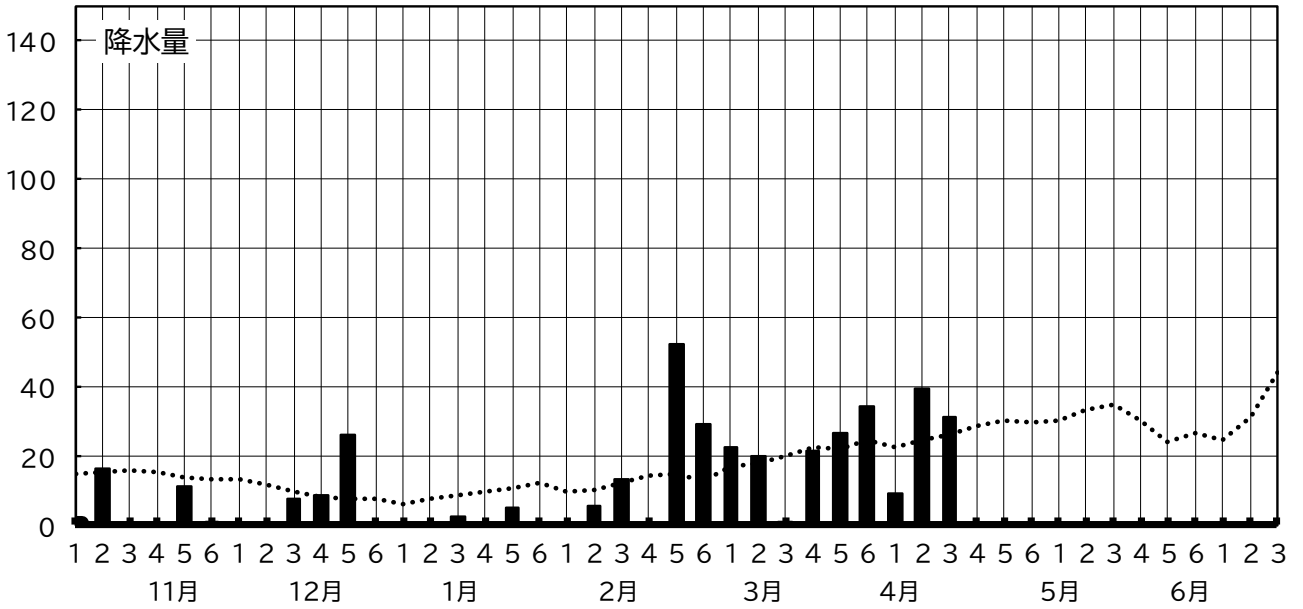
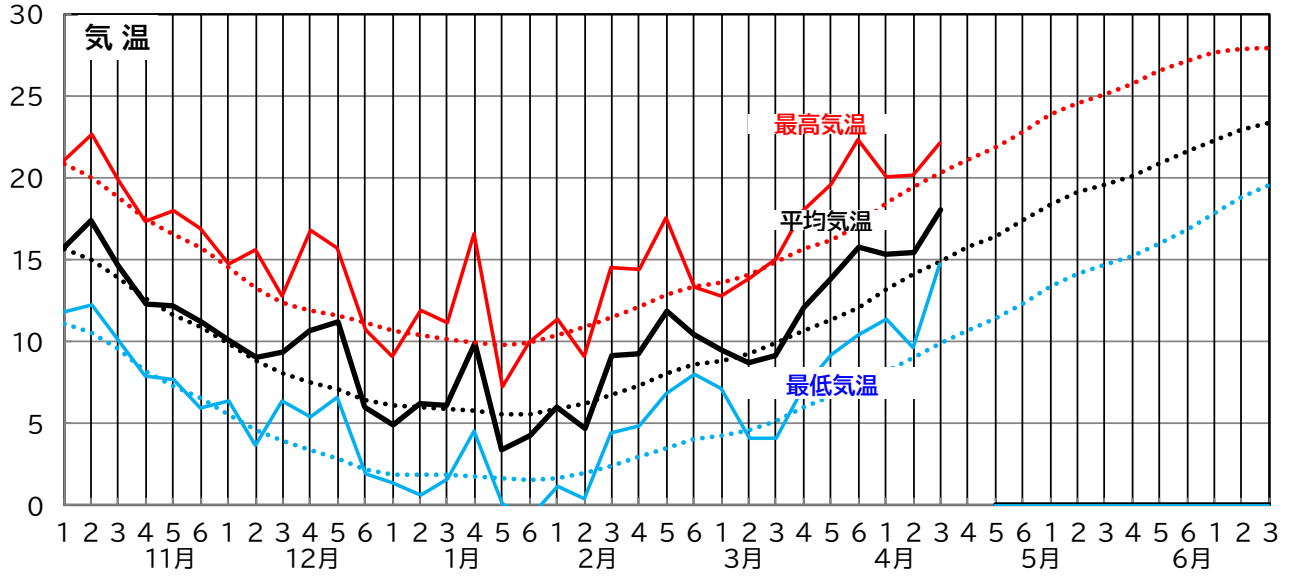
★積算気温は、あくまで目安であるため、実際の刈り取り日程は圃場検見等を行い計画しましょう。  
 ★排水不良田においては、積算気温表より成熟期が早くなる可能性があります。

**（品質向上対策）**  
 1. 収穫後は速やかに乾燥し、品質の低下を防ぐ。特に、小麦では収穫後4時間以内の乾燥を心がける。  
 2. やむを得ず高水分で収穫する場合は、コンバインの回転数を450rpm以下で収穫する。  
 乾燥機の送風温度は50℃以下から始め、穀粒水分を下げながら徐々に温度を上げるようにする。

# 令和8年産麦類生育期間気象グラフ

アメダス観測値(佐賀)

佐城農業振興センター



※グラフ中の点線は平年値